

『衆鱗図』第四帖より
「紅シラゼ／小嶋魚」

海からもたらされる恵みとして、魚類は日本人の生活を支える上で欠かせないものであった。このように精緻で鮮明な描写による博物画の伝統が培われたのには、日本人と海の密接な関係も無縁ではなかったであろう。『衆鱗図』は、18世紀半ばに高松松平五代藩主・松平頼恭のもと制作された、江戸時代を代表する博物図譜。高松松平家歴史資料(香川県立ミュージアム保管)

紅シラゼ



Special Feature

Cherishing Treasures of the Sea

特集 海の恵みを いつくしむ

古来、海は、食物やさまざまな資源をもたらす「命の源」であり、経済・文化交流や精神活動の基盤として、人々の暮らしに密接した存在であった。そして海は、人間の命を脅かす顔も持つ。東日本大震災における津波の被害も記憶に新しい今日の日本で、海はかつてよりも遠い存在になってしまっていないか？ 海が私たちに与える有形無形の恵みに向き合い、考え、いつくしむことで、人間にとって本当に大切な何かに気づく契機になればと考える。

Culture, Energy & Life
CEL

Volume 107
July 2014

Contents

小嶋魚

Page

2

Part / 1

「島国=海国」ニッポン
離島経済新聞社

Page

6

Part / 2

食べて守る海の幸のサステナビリティ
有路 昌彦

Page

12

Part / 3

漁港の魚市場へ

Page

14

Part / 4

「海の道」海洋民族としての日本人
後藤 明

Page

20

Part / 5

海洋資源から見える未来の日本
荒船 良孝

Page

26

Part / 6

「つながり」が育む海の持続可能性
吾妻 行雄+原島 省+加賀城 俊正

Page

32

Part / 7

海に生かされる人々
伝承や民間信仰に見る、日本人の海へのまなざし
古家 信平

Page

36

Part / 8

〈港の女〉と私
水原 紫苑

Page

38

Part / 9

「海の恵み」について考えるための10冊



Column & Essay

衣食住遊

日の国ニッポンの理

エコハウスとは？

火でまつる夏

竹内 昌義

井戸 理恵子

40

CEL Insight

CEL Output Part 1

CEL Output Part 2

よりよく生きるための生活リテラシー 第一回

減災講座 Vol. 1

減災講座 Vol. 2

お知らせ

CELからのメッセージ

機械と生命のパラダイム/後編

ライフステージ分析から見えてくるもの

高齢社会における「ジェロントロジー(老年学)」

減災講座は何を目指しているのか

コミュニティ・レジリエンス

NEXT21に「デベロッパー提案の新住戸」が10月公開予定!

海とともに生きる

鈴木 隆

三島 順子

秋山 弘子

弘本 由香里

永松 伸吾

木全 吉彦

42

46

50

54

58

62

64